

よりて豊玉毘賣命を加ふと云へれば一座あるは後人のしわざ也又按に和多都美御子神とあるは海神の御子神と云事にて昔不合尊にはおはさぬなるべし御母は海神の女なれど其御母につきて昔不合命を海神の御子と申すべき謂なればなり

官社 仁明天皇承和七年十一月庚辰對馬島和多都美御子神

頂三官社一

祭日 八月廿五日

社格 村社

所在 仁位村 字寶山（下縣郡仁位村）

胡祿神社

祭神 表津綿積命

中津綿積命

底津綿積命

今按長崎縣式内社記に祭神綿津見三柱大神とみえ由緒書に神功皇后韓國に幸し玉ふ時此琴崎東澳を過て御船を繋き給ふ御船の碇海底に沈みつるを以て迄取安疊武良海中に入て碇を取上ると云今之の祭場は皇后の行宮故跡なりと云る安疊武良は安疊疊良なき八幡愚菴訓の類にみえたる同人と聞え此人名古書には見あたらぬさ海神の末裔にて皇后の御時に舟楫に功ありし人なりけんを誤り傳へたるものなるべしさて思ふに此人名を傳へて祭神綿津美

神と云るは由あるべしされさ胡祿神社に此神を祭れる由縁詳ならず故今姑く社傳に從ふ

神位 仁明天皇承和八年戊午奉レ授三對馬島无位胡祿神從五位下一清和天皇貞觀十二年三月五日丁巳詔授三對馬島從五位上一胡祿神正五位下一

祭日 一月七日

社格 村社

所在 琴村 字琴（上縣郡琴村）

胡祿御子神社

祭神 豊玉毘賣命

表筒男命

中筒男命

底筒男命

今按長崎縣式内社記に祭神豊玉毘賣命表筒男中筒男底筒男命とあれどもとは住吉三柱神なるを胡祿御子神社とあるに依りて豊玉毘賣命を加へたる由なれば從がたし又住吉三柱神を祭ると云は神功皇后の祭り玉ふ處と云傳ふるのみにて確證なれば疑はしきに似たれど姑く社説に從て記せり

神位 仁明天皇承和四年二月戊戌對馬島上縣郡无位胡祿御子奉レ授從五位下一清和天皇貞觀十二年三月五日丁巳詔授三對馬島從五位上一胡祿御子神正五位下一

祭日 三月三日

社格 村社

所在 長崎縣琴村 字琴（上縣郡琴村）

島大國魂神御子神社

祭神

今按式内社記もと大己貴命一座なれど國史を考るに狹手依比賣神なるべし依て之を加祭るとあるは島大國魂と云に就ての説ながら其島大國魂御子神なれば必ずしも狹手依比賣ミ定タマのがたく又大己貴命にもあるべからず

神位 清和天皇貞觀十二年三月五日丁巳授三對馬島大國魂神御子神從五位上一

祭日 十一月一日

社格 村社

所在 佐須奈村 字地（上縣郡佐須奈村）

大島神社 （明細帳になし取調の事）（稱和多都美神社）

祭神 彥火々出見尊

豐玉姫命

今按長崎縣式内社記に舊神官家系を記して長岡續生家系徳高見命八代孫阿臺龍裔山城國乙訓郡長岡の神官津島の國に渡り大島神社宮となり當代長岡續生に至るまで百卅一代連綿すとみえ祭神彦火々出見命豊玉毘賣命を祭る

今按明細帳式内社記共に祭神を記す事右の如し高皇產靈詳かならねば疑はし附て後考を俟つ

高御魂神社 名神

祭神 高皇產靈尊

建彌己巳命

○下縣郡十三座

大九座

波良波神社

祭神 豊玉彥命

今按明細帳式内社記共に祭神豊玉彥神とあれど其傳說も詳かならねば疑はし附て後考を俟つ

官社 仁明天皇承和七年十一月庚辰對馬島波良波神項三官

社

祭日 六月一日

社格 村社

所在 仁位村 宮山（下縣郡仁位村）

高御魂神社 名神

祭神 高皇產靈尊

建彌己巳命

今按明細帳式内社記共に祭神を記す事右の如し高皇產靈尊は事もなけれど建彌己々命は國造本紀に津島縣直櫛原